

CONTENTS

理事・部局長 新任者挨拶 ——— 4

特集

救命救急センター ——— 6

東日本大震災への取り組み ——— 12

医療研究★最前線「未来医療を拓く」—— 16

幹細胞医学分野 **西村栄美** 教授

卒業生の今「活躍する医科歯科人」—— 18

諏訪中央病院名誉院長

鎌田 實 氏

産学連携リポート ——— 20

医科歯科大生File ——— 21

「自ら問い、自ら導く学生たち」

歯学部口腔保健学科4年 **満生彩乃**さん

Campus Information ——— 22



今号の表紙

2007年、医学部附属病院ERセンターは、東京消防庁消防ヘリ搭乗医派遣運用(ドクターヘリの運用)医療機関に指定されました。島しょ地域や多摩山間地域などから搬送される救急患者の受け入れを行っており、救命効果の向上を図りながら、安心・安全の確保のために貢献しています。

この度の東日本大震災で犠牲になられた方々、一瞬にして大切な家族、財産を失われた方々、二次災害ともいえる原発災害に

直面された方々に心よりお見舞い申し上げ、不幸にして亡くなられた方々に衷心よりお悔やみ申し上げます。

この震災に対し、本学では、医療系大学として、速やかに医師、歯科医師、看護師などの派遣をはじめ各種物資支援、

また義援金の募集をいたしました。まず震災直後から災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)を2回にわたって派遣しました。

その後、福島県立医科大学、東北大学の傘下で、東京大学、

千葉大学とともに継続的な医療活動に参加しております。

物的支援として、国立大学協会と連携し、薬品、

簡易マスクおよび消耗品などを東北大学や被災地に支援しました。

さらに、司法医学や緊急被ばく医療などの専門的な分野での支援のため、医師を派遣するとともに、重症患者や透析患者も受け入れてきました。

加えて、被災地の方々に支援するため、学内の義援金を募り、

1216万1633円を日本赤十字社を通じて寄附いたしました。

今回の地震による本学の被災状況については、

キャンパス内の建物の一部に亀裂や剥落がありました。

幸い、学生および教職員自身が被災することはありませんでした。

しかし、学生、教職員の中で、被災地においてご親族を亡くされた方、

あるいは家屋の倒壊などの被害を受けた方も確認され、

別途学内で見舞金を募ることにしました。

一方、大学の諸行事については、卒業式および修了式は、

かなり大きな余震も頻繁にあったことから、

一堂に会することの危険回避に配慮して、中止としました。

なお、入学式については、亡くなられた方々のご冥福、

被災された方々へのお見舞いを申し上げ、慎ましく実施いたしました。

今後、大学としても、教職員は勿論、学生にも協力をお願いしながら、

被災地へのさらなる手厚い救済活動を

継続してゆかなければならないと考えております。



東京医科歯科大学学長 **大山喬史**



本学は、震災により学部卒業式、大学院修了式を中止しました。写真は式典を予定していた、M&Dタワー2階の鈴木章夫記念講堂。